高揚空間

人を導く空間の関係性

指導教員　吉松秀樹　教授　　印　　6AEB1108 天野　鈴瀬

□問題意識「人は何故建築に誘導されるのか」

都市の中で「人」は「建築」や「道路」によって動かされているように感じた（fig.1）。特に「建築」には人々を誘導して行く要素が詰め込まれている。その要素とはなんだろうか。

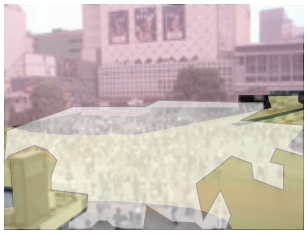


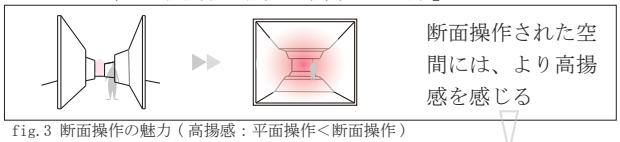
fig.1 都市の三要素（人、建築、道路）

□調査·分析「都市の導く要素」

人々を誘導しているものは、道幅の間隔や看板などによる情報量、空間ボリュームの大小（fig.2）など、「違い」がもたらす「変化」なのではないか。空間（fig.2）の様に単なる大小の変化だけでなく、どのような操作を与えれば導かれてゆくか分析する（fig.3）（fig.4）（fig.5）（fig.6）。

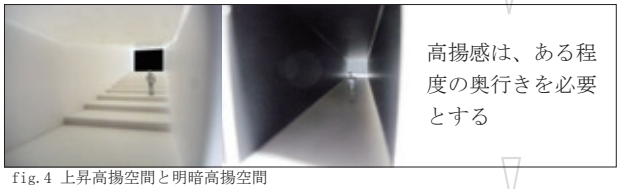
fig.2 空間ボリュームの変化

□モデル化「高揚空間の距離の短縮」



断面操作された空間には、より高揚感を感じる

fig.3 断面操作の魅力（高揚感：平面操作＜断面操作）

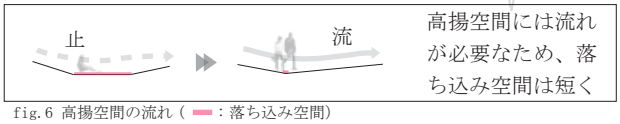


高揚感は、ある程度の奥行きを必要とする

fig.4 上昇高揚空間と明暗高揚空間

床を落ち込ませ、奥行き方向の高揚空間の距離を短縮

fig.5 距離を短縮された高揚空間



高揚空間には流れが必要なため、落ち込み空間は短く

fig.6 高揚空間の流れ（ ▬ ：落ち込み空間）

□提案「高揚空間と解放空間の連続により導く」

より短い距離での高揚感を提案し、住宅を設計行う。そのため、天井にも床と同じ操作を取り入れるが、天井と床では操作を与える位置をずらし（fig.7）、高揚空間と解放空間を連続させる（fig.8）ことで奥へ奥へと導いてゆく。

fig.7　床と天井の変化のズレは高揚感を増幅させる効果をもたらす

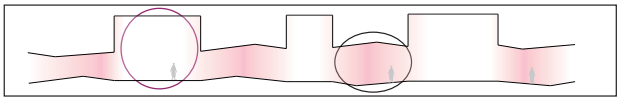


fig.8　断面図　○：高揚空間（次の空間への期待が徐々に膨らんでゆく）
○：解放空間（期待の先にある魅力溢れる空間）

高揚空間と解放空間は共有スペースのみに当て込む（fig.9）。ここでは異空間と感じることを避けるため、操作を行う高低差は最大 500mm とする。一連の流れを作り、徐々に高揚感を高めてゆき、最終的には家族の集まるリビングへ到達する動線計画を行う。

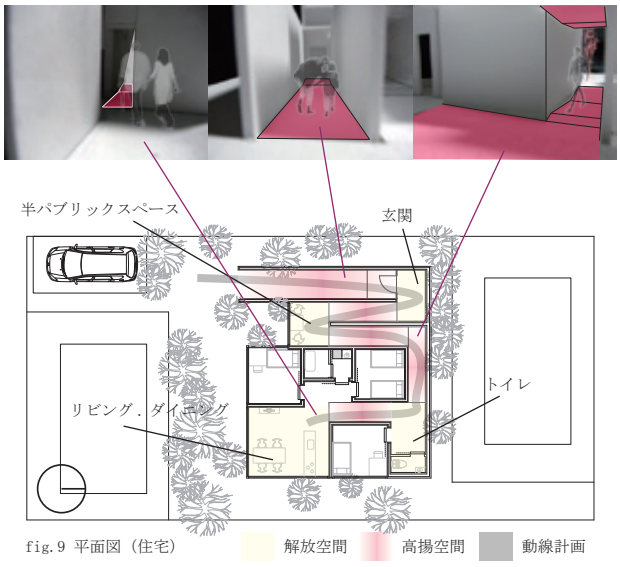


fig.9 平面図（住宅）